

新しい年を迎え、新たな決意で前進を

新しい年を迎えました。コロナも3年目。オミクロン株はどうなるか予断を許しませんが、新たな決意で同盟活動を前進させましょう。

今年は同盟の第40回全国大会が6月12～13日に開かれます。7月10日には参院選です。

1 会員拡大で2万人の同盟へ

昨年は斉藤佐智子さん、千田ハルさんが亡くなったのははじめ、高齢と病気で退会された方もあり、同盟の現勢が初めて後退しました。総選挙の結果、改憲勢力の目論見を許さず、情勢をきりひらく自力を強めることが求められています。新しい仲間を迎えるために奮闘しましょう。



2 国会署名で目標達成へ

岩手・東北選出の国会議員は、木戸口英司、横沢高德、小沢一郎、階猛、岩渕友、高橋千鶴子の6人です。一人に1,000筆を託しても6,000筆が必要です。コロナで大変ですが、全会員が10筆以上を集め、本部目標、県目標をやりぬきましょう。国会請願は5月です。

3 劇映画「伊藤千代子の生涯」を全県で上映へ

映画「伊藤千代子の生涯」を観る岩手の会が発足し、全県各地での上映運動を呼びかけています。4月までに地域の準備を進めましょう。

4 学習と犠牲者の顕彰活動を

同盟活動の活力の源は学習です。『新しき明日をめざして』の活用、多喜二忌、織田秀雄や鶴彬の顕彰、歴史散歩など、楽しく多彩な学習活動を強めましょう。

＝御礼＝ 中央へ
の年末募金にたくさん
のご協力をありが
とうございました。

不屈

発行所
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
〒113-0034東京都文京区
湯島2-4-2全労連会館
国賠同盟岩手県本部
〒020-0013盛岡市愛宕町
17-4 牛山清夫方
T/F 019-623-8648

▼織田秀雄生誕祭 奥州市▼戦争体験の発表・懇談
会 宮古市▼自衛隊への個人譲歩提供は中止を北
上市▼『新しき明日をめざして』を読む ▼もりお
か歴史散歩の感想2 いわて労働相談センター 三
好俊男さん・高屋修さん▼劇映画「伊藤千代子の生
涯」を観る岩手の会発足▼国賠女性部学習会

一寸一言

民主主義の危機

▼1月6日、米議会襲撃事件から1年となった。TVで1年前の映像が流され、改めて民主主義の危機が語られた。▼事件の捜査はまだ続けられており、起訴された人たちの裁判も行われているという。その弁護を担当している女性弁護士が語っていた。被告の多くが罪を認めていないという。彼女に対し、誹謗中傷のメールや脅迫状が届き、身の危険を感じてFBIの報告しているという。1年経てもあの時の分断が解決されていないという事実により問題の根深さを痛感した。

▼バイデン氏は、6日議会で「道義より権力を重視し、国益より自己の利益を優先させたからだ」と演説したという。これはそっくりどこかの国の某氏にも当てはまらないだろうか。嘘八百を並べて国会の権威を失墜させたにもかかわらず、未だに権力をちつかせている彼とその支持者の姿が重なって見える。嘘をつき通したもん勝ちにしてはならない。▼赤城雅子さんの裁判は、国の認諾という卑怯なやり方でピリオドが打たれようとしている。民主主義の危機は海の向こうの国のことではなく、私たちの国のことである。バイデン氏のいう通り「1月6日は民主主義の終わりではなく自由とフェアプレー再興の始まり」にしなければ！

織田秀雄生誕祭・・・奥州市 作品に学ぶ織田秀雄の心

12月5日(日) 10時から奥州市の上笹森交流館において織田秀雄生誕祭が開催されました。参加者は35名、上笹森地区の人も多数参加されました。織田秀雄は没後113年となりましたが、その短い生涯の中で小説や詩、随筆など数多くの作品を書き遺しました。佐藤秀昭氏がまとめた「織田秀雄作品集」の中から代表的な作品を小冊子5冊に編集して「織田秀雄作品集『土の唄』」全5集として12月1日発行されました。

冒頭に牛山会長が、「北上側上流の啄木、中流の賢治、下流の織田秀雄と称する人がいる。啄木も賢治も生前はほとんど評価されなかったが、没後に作品が紹介され評価されるようになった。織田秀雄も今回の本の発行を機に作品を広げていきたい」と挨拶されました。

作品集の編者の穴戸春雄さんが「『土の唄』に織田秀雄の心を読む」と題して作品を詳しく紹介しました。続いて俳優の高橋瑛子さんによる朗読「鬼婆の話」「麦搗き節」と歌(奥州市民劇「ヤロコ」の詩(うた)の挿入歌)が披露されました。

集会の後、遺族の織田佐規雄さんとともに織田秀雄のお墓に行き献花・焼香しました。



織田秀雄作品集
「土の唄」全5集
2200円(各440円)
奥州市内の書店
事務局・菅原
080-1832-3312迄

本当の平和を語るために

戦争体験の発表・懇談会・・・宮古市 前川慧一

対米英戦争開戦80周年にあたり、宮古・下閉伊地域の戦争を記録する会(前川慧一代表)は、12月18日、地域平和委員会・年金者組合・母親連絡会と協力し、宮古市民交流センターで、体験集「戦争の時代に生きて」第6集の発表・懇談会を49人が参加し開きました。

この体験集への寄稿・証言の呼びかけは「あの戦争は何だったのか」「戦争の惨禍を知らなければ、本当の平和は語れない」との立場から地域に埋もれる体験の掘り起こしに努め、2016年の第1集発行以来、寄稿者は90人に達しました。

当日の発表者は11人で、

◎輸送船2隻で航行中、同僚船は米潜水艦に撃沈され、乗組員の救助かなわず見捨て、近くの島に上陸。それを本隊に通報したところ、兵士、乗組員の遺族には、「遺骨の代わりに」砂を送れ」と指示があり何ともむなしい思いがした。

(100歳 元対空無線隊員)

◎沖縄で戦死した父を想い、何度も戦没者墓園に焼香に訪れ号泣した。石垣島では、父と同姓の看板商店があり、もしや父が生存しているのではないかと思入店し確かめたりした。

(77歳 戦死者の娘)

穴戸春雄さんのお話から

織田秀雄の作品は土と共に生きる百姓たちの生活が土台となっている。百姓たちはたくましく、おおらかで、喜びも悲しみも共有する。歌でもない、謡でもない、詩(うた)ではきれいなぎる、おどけた表現も思いやりの心も同居する、唄である。◎方言による表現を大切にしたい。子どもたちにも方言で綴り方を書かせた。生活文化・大衆文化の中から生まれた芸術である。

デビラコ	蝶々
デビラコ	ちようちよ
デビラコ	ちようちよ
アンチコト	案じ事(心配事)あるか
メツパジキ	まばたきもしないで
ナニミデル	何見デル
オラダハ	俺だは
ユベナ	タベな
エツソメシ	エツソ飯(米だけの飯)
エツソメシ	食べた エツソ飯食べた
エツソメシ	食べた エツソ飯食べた

麦つきは楽だと思へ
楽でない
何仕事、仕事に楽があらばこそ
○このうたは麦搗きうたの代表的なものである。
広く流行している

生活と結びついたコトバは生活そのものの表現。民話や「ヤロコ」童子の表現、童言、民謡の採集、その中で糞、小便、屁などの生理現象もそのまま描写して人間味を表現した。土と共に生きる農民たちの生活文化への確信と貧しさを強いる社会への批判精神。治安維持法の犠牲となり、その道を断たれたことが残念でならない。(D)

◎捕鯨乗組員の息子2人が、釜石沖で米潜水艦の攻撃により海に投げ出され死亡した。しかし母は息子の死を信じられず「どこかの島に泳ぎ着いて、ひよっこり帰ってくるかもしれない」と岸壁に行つては海を覗きこんだり近くの山や草むらを探したりした。(88歳 女性)

◎息子が津軽石で出征兵士として見送りをうけ、いよいよ列車が動き出したとき、母は息子の名を叫びながら線路づたいに追いかけた。その姿が今でもまぶたから消えない。(94歳 女性)

・・・などと体験を発表しました。
そして、さいごには日本国憲法9条を朗読、この憲法のもとでつくられた服部良一作曲の「青い山脈」を合唱し、閉会しました。

第6集 B5版63頁 1000円

宮古市の書店で発売

問い合わせ先 0193-63-1346

宮古地域の記録する会 事務局

「市による自衛隊への個人情報提供は中止を」

学習会開催、署名運動スタート!

国賠同盟北上支部 事務局長 菊地 靖

「北上市の自衛隊への個人情報提供問題を考える会」(国賠同盟北上支部を含む市内7団体で設立)は12月11日に市内で学習・集会を開催し、北上市長に提出する「自衛隊に個人情報を提供しないよう求める署名」運動をスタートさせました。この運動

は、北上市が毎年、各年度の18歳に達する人の個人情報（住所、氏名、生年月日、性別）を本人の同意なく、自衛隊に紙媒体で提供していることを止めるように求めるものです。当時の学習・集会の様子は、岩手日報、岩手日日新聞にも掲載されました。

広範な市民の運動で中止を

北上市は2016年度から毎年紙媒体による名簿提供をしており、これまで6年間6741もの名簿を自衛隊に提供しています。今年から花巻市も名簿提供に応じ、4月に912人分を自衛隊に提供しました。これにより岩手県内33自治体のうち28自治体が提供していることになり、実に85%にのぼります。自衛隊への名簿提供は全国ではおよそ4割りの自治体にとどまっております。岩手県の自治体の名簿提供は異常に多いと言わなければなりません。



自治体による本人の同意なき個人情報提供は、憲法に保障されたプライバシー権ないし自己情報個人情報保護条例にも反するものです。多くの市民に知らせ、運動を広めて名簿提供の中止を求めていくことが必要です。

問題点が一層明らかに

集会では、今年6月の北上市通常議会一般質問で取り上げた高橋久美子議員と市当局との質疑の録画を視聴しました。その中で、北上市が名簿提供根拠とする自衛隊法・施行令や住民基

本台帳報には紙による名簿提供の文言もないこと、提供した情報などのように利用されているかも市は分からないことなどが答弁で明らかになっています。また、市からは「（名簿の提供は）自衛隊からの依頼があるかないかです」、「（名簿提供が）必要か必要でないかは自衛隊が決めることです」という憲法92条にうたう地方自治の本旨すら否定するような驚くべき答弁もありました。

8月に市へ要請めざして

集会の最後に、事務局の鈴木健二郎市議が第1次運動として、来年8月までに高校生をはじめ市民に問題点を知らせ、署名3000筆を集めて市長に要請することを提起し署名運動がスタートしました。また、当日、花巻市から参加した方が「ぜひ花巻でも運動したい」と準備をすすめることになりました。

県内どの自治体もほとんどが住民に知らせることもなく名簿提供をしており、自衛隊への名簿提供は住民個人のプライバシーの権利を守るかどうか問われています。また、議会の承認もなしに住民情報を提供されるのは民主主義そのものが問われることです。集団的自衛権を認めた安保法制のもとで自衛隊は大きく変えられようとしています。そして、憲法9条への攻撃がかつてなく強まっている今日、自治体を「戦争する国」の下請け機関にさせないためにも、運動を広げて行きたいと思えます。

『新しき明日をめざして』を読む

戦前の岩手に共産党の組織と活動はあったのか

新しき明日をめざして」には、治安維持法等で弾圧された人々を中心に255人の略歴が収められている。岩手の社会運動の「人名辞典」として活用できる。

また幕末の三開一揆から敗戦と新憲法の誕生までの「年表」と26編の「解説」によって岩手の社会運動のあらましを辿ることができ「手引き」することもできる。その他の女性の活動は？共産青年同盟は？ などテーマをもつて読むことができる。

そこで治安維持法の目的は、共産党との組織活動、思想までも根絶することであったから、戦前の岩手に共産党の組織と活動はあったのか探ってみる。

▼結論からいうと、岩手には共産党の指導機関も基礎組織もなかった。だが活動はあった。

戦前の日本共産党は1922年に創立した時から非公然であった。28年の普通選挙法による初の総選挙を前に機関紙「赤旗」（せっき）を創刊し、公然と活動を始めた。総選挙では山本宣治ら8人が無産政党から当選した。驚いた天皇制政府は全国で1600人の大弾圧を行った。（3・15弾圧事件）



岩手でも10数人が検束されたが、「治安維

持法に抵触する者は一人といない」（岩手日報）と釈放された。共産党員はいなかったというのである。

翌29年は、4・16弾圧事件、1930～33年は弾圧のピークで岩手では300人が検挙された。このような事情から共産党の組織化はできなかった。

しかし、共産党の活動はあった。

●釜鉄の塀をのりこえ共産党が発行したビラが撒かれている。

〔高橋成夫の項参照〕

●「赤旗」がひそかに配布されている。

〔末永信治、川口孝志の項、解説16参照〕

▼では、共産党員は岩手にいたのか？

いたかもしれないが、確かなことはわからない。

というのは、九戸村出身の松浦繁蔵は大阪で共産党に入党したとして3年間投獄された。本人は共産青年同盟に加入したが、入党していないという。

〔松浦繁蔵の項参照〕

盛岡消費組合事件で起訴された柳館与吉も中央のオルグに「赤旗」をすすめられ、入党の推薦があり入党したとされたが、本人は入党していないし、「赤旗」もみていないという。

〔柳館与吉の項参照〕

東京で活動し党員になった岩手出身者はいたかもしれないが、党員として岩手で活動した人がいたかどうか不明である。

▼岩手で300人も検挙されたのは、共産党の外郭団体で活動し、党員、支持者とみなされたからであった。

1930～33年の活動は広範囲であった。

全協Ⅱ全日本労働組合協議会の一般使用人組合、教育労働者組合（教労）、三陸漁業者組合、解放運動犠牲者救援会Ⅱ赤色救援会、共産青年同盟、反帝同盟、新興医師連盟、消費組合、

農民組合、社研Ⅱ社会科学研究会、雑誌「戦旗」読者会、プロレタリア文学・演劇・美術・映画・科学、そして各団体の機関紙誌、共産党の「赤旗」や合法紙「無産者新聞」の普及など。社研は、高等農林、岩手師範、医学専門学校、全県の中学校に組織された。

全協や救援会に加入して活動すれば、共産党の活動とみなされることは覚悟の上でもあったようだ。

こうして弾圧されても弾圧されても、後に続いたのであった。▼戦後治安維持法は廃止され、新憲法が誕生した。

岩手に共産党の県委員会（当時は地方委員会）が結成されたのは1946年3月。県委員長は（当時は組織部長、責任者）は岩手日報記者の福田英四郎、事務局長は共同通信の『太田已知夫であった。福田は青森県出身、太田は神奈川県出身で、二人とも治安維持法の犠牲者であった。

盛岡地区の初代委員長の川村金一郎も犠牲者であった。〔福田英四郎、太田已知夫の項参照〕

このように犠牲者たちは共産党の結成にも社会党県連の結成にも参加していった。

〔川村金一郎の項参照〕
▼最後にもう一つ、社会主義運動の歴史としてみておきたいことがある。

それは、片山潜の盛岡での演説を聞いて岩手で最初の「社会主義者になった小森智円が、戦後岩手に共産党ができると入党していることである。

〔小森智円の項参照〕
岩手の社会主義運動の歴史としても、共産党の歴史としても重要なことである。

また、社会主義の思想と運動をめぐって戦前から様々な潮流があったし、論争があった。

戦後も、共産党と社会党左派（向坂派）の論争があったし、社共共闘で次第に革新自治体を実現した時代、社公合意で共産党が排除された時代、自社政権・村山内閣の時もあった。社会党は社会民主党に変わり、最後は立憲民主党に合流した。

こうして創立100周年を迎える共産党だけが社会主義の旗をかかげる政党となった。

（Ｑ）

もりおか歴史散歩を楽しむ 感想 その2

＊誰かが歴史をひもとき知らせること

いわて労働相談センター相談員

三好俊男

私は盛岡市旧油町（言本町通り1丁目）で生まれ育った。

盛岡歴史散歩のコースは子供の頃遊んだエリアだったが、平和と民主主義・社会進歩を目指した民衆がこのエリアに眠ることを70歳にして知る機会となった。

私は小学校から高校まで、これらの活動をした歴史に名を残す人たちのことは、何も学んだ記憶はない。誰かが歴史をひもとき後世に知らせる活動を継続しない限り、語り継ぐことは困難と思われる。

自分が労働分野で活動し、そして今労働に起因する問題の解決の一助になればと『労働相談』にかかわりながら、歴史を学ぶことの意義を改めて重要と感じている。

＊意外な人のお墓が

いわて労働相談センター相談員

高屋修

牛山さん、案内ご苦労様でした。

これまで何回か盛岡歴史散歩には参加してきましたが、今回は北山周辺でした。この地は私が子ども時代に下小路中学校に行っていた頃の周辺でした。以前の歴史散歩で、鶴彬や畠山太助の碑は知っていたのですが、それ以外に色々な人のお墓や、碑を見ることができ、大変興味深かったです。

昔は三ツ石神社の周りは杉が鬱蒼と茂っていて、中学校時代に教室の暖房の焚き付けにクラスで杉の葉拾いに行ったことが思い出されました。当時は鬼の手形もハッキリしていたように思います。今はすっかり開けてしまいましたが、薄暗い方が見えやすかったのかもしれない。

下小路中の校歌の作者は小田島弧舟なのですが、遠い人だろうと思っていたのですが、こんな近くの人だったとは初めて知りました。

子どもの頃に父親に連れられて五百羅漢など、盛岡を色々見て回ったことも思い出しました。楽しい一日をありがとうございました。

劇映画

「～伊藤千代子の生涯～」を観る 岩手の会が発足！

こころざしをつたふれし少女（おとめ）よ

新しき光の中におきておもはむ

とうたわれた伊藤千代子の映画を全県で上映しようと12月27日、岩手の会が開かれ発足しました。

冒頭呼びかけ人を代表して牛山靖夫国賠同盟会長が挨拶しました。

これまで山本宣治、小林多喜二、鶴彬という男性の映画は作られたが、女性が主人公の映画は今回が初めてです。戦争と無権利の時代に志をつらぬき、民衆のために闘い斃（たお）れた伊藤千代子の生涯に今学ぶことは多いと思います。伊藤千代子を知らない人はたくさんいます。この後学習PR用DVD（28分）を鑑賞しました。

会の名称：劇映画「伊藤千代子の生涯」を観る岩手の会

会の体制：代表 小野寺けい子（日本共産党後援会長）

副代表 牛山靖夫（国賠同盟県本部会長）

渋谷靖子（新婦人県本部会長）

事務局長 村上和雄（日本共産党後援会事務局長）

当面の活動 ①全県各地に観る会の結成を呼びかける。

②製作資金づくりを急ぐ。

③その他

同盟では、1口10万円の製作資金を拠出しました。



総選挙結果を深め、 前進の決意を確かに



「治安維持法と現代」秋季号、巻頭論文、五十嵐仁さんと望月衣塑子さんの論文を学習しました。2人の論文は総選挙を振り返りさらに深めることに役立ちました。

五十嵐さんの論文では、岸田文雄新内閣を『ハト派・リベラル』の衣をまとった『安倍背後霊』政権と痛快に分析し、3A（安倍・麻生・甘利）が「おんぶお化け」のようにとりついているので岸田カラーを打ち出せず、岸田首相の限界があることを解いています。記事の中にはおもしろい言葉がたくさん出てきました。「安倍背後霊」を筆頭に「おんぶお化け」「賞味期限」「コーティング」など、新聞ではあまり表現しない言葉のおもしろさを感じて、私の頭でもスラスラ入ってきました。

話し合いでは、涼しい顔をして恐ろしいことを言っている岸田政権の本質がこもごも出されました。「安倍氏はなぜ強い権力をもっているのか？」の疑問も出されましたが、日本会議の存在？などあると思うがあまり明快な答えは出ませんでした。

今回の総選挙はひどかった。自民党総裁選でメディアジャックを行い、国民の目をそらし総選挙へと突入しました。「マスコミの言論統制はひどい」ということで、望月さんの論文へと進みました。「ジャーナリストからみた安倍・菅政権」は、現役記者ならではの政界とマスコミの癒着をつく望月さんならではの視点でぐっと深まりました。文中の「3Aには、河野太郎氏の総裁就任阻止という共通の利害があった。原発推進派の甘利氏にとって、河野氏の脱原発路線は容認できず、麻生・安倍氏からすれば、政権の若返りによる影響力の低下や、河野陣営についた石破茂氏らによって「森友・加計学園・桜を見る会」の問題を蒸し返されることは避けたかったからだ」という下りは納得でした。

話し合いでは、権力とカネに弱いメディアの墮落は、メディアの本来の役割である「批判精神」をもはや失っているという情けない状況をつくっている。日中テレビを見ているのは高齢者、若者はネットで情報を得ている。SNSでの疑情報、実際ツイッターで「人権を守ろう」とやっているものでも誹謗・中傷が返ってきたりするので付き合い方が難しい。

来年7月の参院選挙に向けて何ができるのか、やられっぱなしでは悔しい。今回、政権交代は出来なかったがある程度まで前進したことはすごいと思う。

「与党側の分断に負けずやれることをやっていきましょう」と今年最後の学習会を閉じました。味のある方、一度私たちの学習会を覗いてみませんか。お待ちしております。（渡辺よし子記）

次回 1月18日（火）13:30～15:30

於：盛岡市中央公民館

男性の皆さんの参加もお待ちしております！

多喜二忌 映画を観る会（仮称）

2月19日（金）13:30～

労働者後援会（浅沼ビル6階）の予定

映画「時代を撃て・多喜二

～生きたい 書きたい～